

育英会だより

発行所
財団法人 漁船海難遭児育英会
東京都千代田区内神田
2丁目2番1号
鎌倉海岸ビル内
電話 03(256)1981
03(256)8394
印刷 (株)連合印刷センター
電話 03(582)8541



もう一人の子供に 託したい

励ましおばさん会員

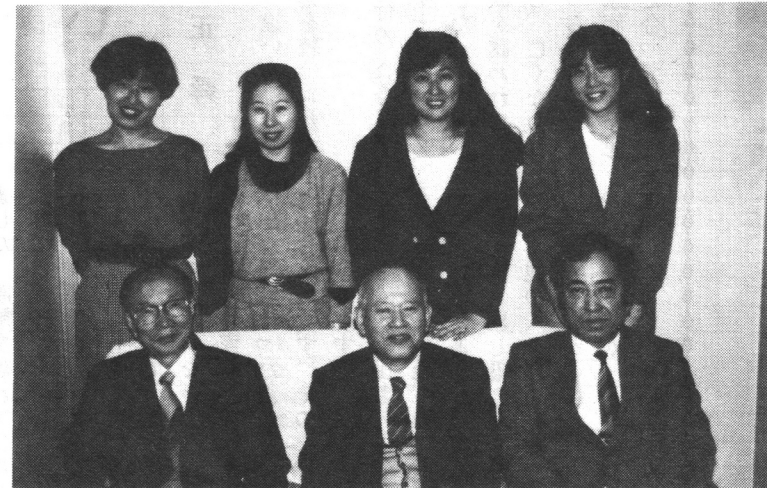
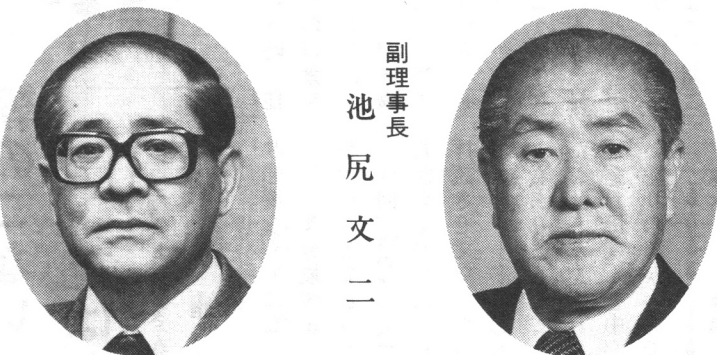
谷 佐代子

この育英会のことを知ったのは、四年前の朝日新聞・天声人語だった。それがちになり、それでも文句も言わず、催しもないで待っていて下さり申訳なく思っています。

天声人語を読んで、すぐ申込みをする気になったのは、わけがあるのです。もう十年前位から、礼文島の北の端にある須古頓小学校との交流がある

理事長
鈴木善幸

副理事長
池尻文二



専務理事 前田 優 業務部長 島 弘 総務部長 林 和 美 子 紀 岡 盛 草 千 橋 高 子 穎 類 大 三 重 子 津 取 場

漁のくらしは 助けあい



励ましおじさん会員
中 森 正 元

これから何人の「もう一人の子供」が育つことでしょうか。

おたがい人類のしあわせのためにがんばりましょう。この気持ちを少しでも多くの「もう一人の子供」にも託したいと思っています。

〒583 大阪府藤井寺市
恵美坂一十七十八

昭和六十年に「励ましおじさん」に

応じてから「育英会だより」などで、

皆さんの日頃のご苦労をわがことのよ

うに心をこめて読んでいます。

私は三重県の漁家に生れ、手漕の舟

が二隻あって、子供漁師として育った。

水産の学校を出て役所に採用され、沿

岸漁業一筋の行政を担当した。

戦争中も廈門（アモイ）を根拠に中

国漁民とともに興亜院の指導漁船「閩

水丸」（ビンスイマル）に乗り、台湾

海峡で操業した。その六十年の間、幾

度も時化にあい、また海難漁船も救助

した。閩水丸は米機の爆撃で沈んだが、

朝日中学校入学祝金

中学校に新入学した奨学生に対する入学祝金は、昭和六十年から開始した事業です。

この事業の開始は、朝日新聞東京厚生文化事業団から朝日歳末助け合いキャンペーンによる寄託金を、本会へ贈呈されたことが契機となっており、

五十九年十二月から贈呈されたこの寄託金は、六十二年を除き六十三年も贈呈されましたので、平成元年度に中学校へ入学される奨学生には、入学祝金一百万円が贈呈されます。同事業団に心からお礼申し上げます。

男子寮生のお知らせ

毎年本紙の新年号でお知らせしております大学・短大・専門学校等へ進学した本会の男子奨学生に対し、本年も次の二つの寮が入寮の御協力をいただきます。希望者でその内容をくわしく

くらしも、助けあわないと生きてゆけない運命であり、生活と仕事とが一体となっている。

海の自然現象は、人のくらしを支える一方、時には人の命を奪い去る。生き残った者が、その人のあとをうけついで、二人分を働くことになる。

人の人たる所以は、人と人との結びつきに始まり、皆が仲よく生きることができるのは人だけである。敗戦近く在留民の家族だけを日本へ疎開さす命令が出て、徴用船辰和丸に運命が賭けられた。私の妻も二人の乳幼児を抱いて、相次ぐ敵襲に生死をさまよい、私の故郷へ辿りついたとき、子宝だけが

おみやげとなった。

やがて子供たちはそれぞれ独立して各地に離れてゆき、核家族となった。この現状は私は漁業でいえば、成功した母船式操業だと思っている。

第四回願書受付締切日
平成元年1月31日
第四回奨学金送金日
平成元年3月3日 予定

知りたい人は、育英会事務局へ連絡ください。

なお、寮の利用は、東京及び周辺にある大学等に限定されますが、「知新寮」の場合は交通機関である東武東上線が地下鉄有楽町線に接続、乗り入れするようになり、便利さと通学圏がひろくなりました。

一、全国共済水産業協同組合連合会（共水連）「知新寮」
所在地・埼玉県川越市砂新田三丁目 二二一
電話・〇四九二（四五）六九七一
一、東海寺学生寮
所在地・東京都品川区北品川三十一 一九
電話・〇三（四七一）六九四三

私の家には「海志未忘」の額が掲げ

てある。

海難という大きな悲しみにあっても、時には冷い世間の風にさらされても、それらをのりこえていく努力が、人生の力強いたくましい年輪となって積み

あげられていく。そのような人生は、海という大自然にかかりをもった漁村に漁家にくらししている人びとに、い

つしか培われている独自の輝かしい底力が貯えられている。

そうした自然とあたたかい人びとに囲まれている漁家のくらしは、もともと生きがいにあふれたすばらしいものだ。世の中は急速に変ってゆくのは当然だが、身についた助けあいの心は、一そ

うゆるぎない対応をしてゆく。

私は、そう信じている。

〒251 藤沢市辻堂元町
四一〇一八



朝のこない

夜はない

励ましおじさん会員

楠 正舜

「自分が本当に苦しんでいる時、他人から『大変ですね』と慰めの言葉をかけられるほど口惜しい思いをしたことはありませんでした。」ご主人が肝臓を患って何年も仕事ができず、まだ幼

り悲惨なものになったに違いありませんし、多分最後まで学業を続けられなかったことでしょう。

今回、改めて貴会・刊行の「父さん、大きく変わったよ(六〇年十月出版)」を拝読させていただきました。一つ一つのエピソードに思わず涙を誘われることもありました。しかし、亡くなられたお父さんを忘れず、つらい苦しい毎日をお母さんを中心に家族みんなが思いやりの温かい心で支え合って生きて

いし、自分の道はひとつしかないので歩んでいこうと思います」というご苦労の末に到達なさったご心境には頭が下がりました。

作家の吉川英治先生がご自分の人生を振り返って「朝のこない夜はない」という言葉を残してくださいました。

先生ご自身が少年時代の大へんな苦労に耐え、刻苦して作家として大成なさったお方であるだけに、人生の真実を言い当てられた言葉だと思います。

明るい昼ばかりの人生もなければ、真暗な夜ばかりの人生もありません。夜の闇が深ければ深いほど、朝が近いと考えてよいのではないのでしょうか。どうぞこの言葉を支えとして生き抜いていただきたいと思います。

〔〒241 横浜市旭区白根町一三七八〕

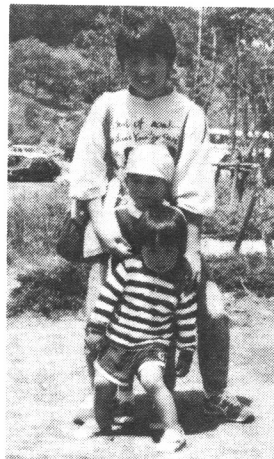
願っています。

今、我が子は今年八歳、六歳、三歳というふうに小さいので、中学、高校生を持たれる家庭ほど、お金はかかりません。その分を今必要な人に使ってもらいたいのです。

話が変わりますが、私自身、心に夢を持っていました。いつか必ず花ひらくと信じて、頑張っていました。そんな私の姿を見て、きっと子供達もそれぞれの感じ方で受け止めてくれることでしょう。どんな困難に出会っても夢は持ち続けて下さい。

「倅」と感じられる心をなくさないで下さい。

本人 次男 三男



皆さんとともに

励ましおばさん会員

山上 しげ子

実際の、毎日の新聞・テレビでさまざまな事故が報道されています。そういうニュースを知った時、一瞬「ああお気の毒に」という気持ちが起きますが、もう次の瞬間には心は他のことに奪われてしまいます。「お気の毒に」という気持ちは持続しません。恥しいことですが、それが私のありのままの心でした。(今も変わっていません)

「一人で書いたのは、私達家族も父親が六十二年六月、急死していませんからです。

一年間は、悲しさや虚しさ、これからどうしたらいいのだろうという気持ちが入り混じって、「死」さえ考えた事もありました。

でも、それを立ち直らせてくれたのは主人の愛と、私自身、親として子供達に倅になつてほしいという思いです。夫として、父親として、それ以上に人間として尊敬していた主人の様に、精一杯、生きて、生きて、生き抜こう、そして、子供達に父親の生き方を態度

で見せて行こう——こう思うことよって悲しみからぬけ出ることが出来ました。

そんな悲しみの中、この海難遺児育英会のことを、新聞で知りました。見慣れない文字に「今まで主人からしてもらったことを誰か人のために出来たら」、そう思ったのです。

「これでいいのだろうか?」という心の奥底からの囁きに促されて、長女が短大を卒業しお勤めに出るようになった時、私たち夫婦はいらなくなった長女の学費の分だけへあしながおじさんとしてささやかな協力をさせていた。だこうと思ひ立ちました。その後、

長男が大学を卒業した時、今度は漁船海難事故で働き手をなくされたご遺族に心ばかりのことをさせていた。だこうという事になりました。仮りに、私が途中で病気が事故で死ぬようなことであつたら、子供達の学生生活はかな

私には、今でも「人生で一番倅せなこととは?」と聞かれたら、こう答えます。

「主人と結婚できたこと——それが、私の人生の原点です。

そして、三人の子に恵まれたこと。今でも心の中の主人と共に、生きられること。これが私の心のささえです。

悲しみを体験して来たからこそ、子供達には、倅になつてほしいと強く感じます。自分の子供だけではなく、全ての子供達に倅になつてほしいと

「倅」と感じられる心をなくさないで下さい。

どうせ、一度の人生なら、笑って生きていきましよう。

同じ立場の母親としてお互い自分の人生に悔を残さないように!!

最後に一言。

私は、自分達家族を母子家庭だと思つたことはありません。なぜなら、私達の心には、常に夫が、父親が一緒だからです。

〔〒851-21 長崎県西彼杵郡時津町〕

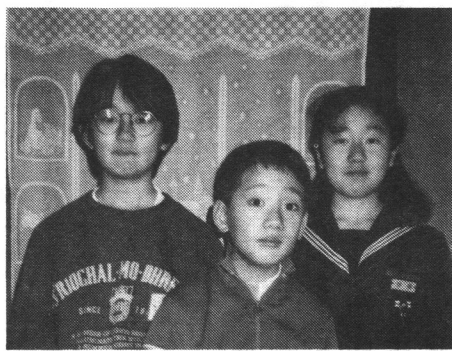
いままでの私、

今の私、そして

これからの私

北海道羽幌中学校一年

伊藤 有美



(妹)潤子さん (弟)豊志君 本人

私のお父さんは、私が三歳の時にあの世にいきました。私は、お父さんのことは顔をおぼえているほかはあまりおぼえていません。

小学生時代の夢は「吹奏楽部に入り、クラリネットを吹くぞ!」、これが私の大きな夢でした。そして中学生になった今、勉強よりも部活に夢中になつていて毎日ですが、実際に入学してクラリネットを吹きたかった私がサックスにも憧れて、とうとう希望した楽器になることはできずに、パーカッションになりましたが、おかげで、吹奏楽コンクールでは、みごと金賞を受賞しました。また、本当に先輩にもめぐまれ、小学校時代からの夢だった吹奏楽部に入部する夢の一つがかない、毎日が楽しくてたまりません。

それと話がかわりますが、五人の親友がいます。この五人の中には、小学校からの友達が二人います。一人は、Kちゃんです。今のクラスはKちゃん一人ががうけど、大の仲良しです。

Nちゃんもその一人です。NちゃんとEちゃんとYちゃんとHちゃんともすぐ仲がいいです。この五人とは、ケンカしたこともないし、毎日、学校に行くことが楽しくなります。また、クリスマス会をやったり、みんなで初めに

うでに行く約束もしています。

これまで部活、友達作りにはげんできた私は、勉強の方はさっぱり……。テストも調子がいいときは、すごくいいんだけど、調子が悪い時は、すごく悪いです。この前のテストもひどい点で、お母さんにおこられてしまいました。

お母さんは私に「おまえが一番、お金がかかる」といいます。中学生なんだからあるていど、お金はかかると思いますが、将来の夢を実現させてください。お母さん頼みます。

最後に家のことを書きます。私は三人姉弟の姉です。家は平家の住宅で、はつきりいつてせまい。部屋は、私と妹と弟の三人で四じよう半の部屋を使っています。お母さんは、私達のために一生懸命がんばっています。妹は小六で、ときどき姉にまがられるほど大人っぽい子です。弟は小五であまえばうな男の子です。あつ……しまつた。将来のこと書きわすれた。

すごく大切な将来のことは、簡単にいうといつまでも吹奏楽をつづけることと、吹奏楽コンクールで全国大会に出場すること、看護婦になることです。これからも、夢をかなえるためがんばりたいと思います。

〔〒078-41 北海道苫前郡 羽幌町北町五四〕



修学旅行の思い出

鹿児島県樋脇中学校二年

水流 志津子

私は、十月十八日から十月二十日まで、の二泊三日の長崎と熊本に修学旅行に行きました。

都道府県別奨学生数

(昭和63年12月末現在)

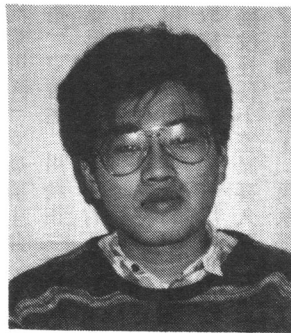
県名	学資給与奨学生				奨学金貸与奨学生	合計	63年度第3回新規採用者				
	幼児	小学生	中学生	小計			幼児	小学生	中学生	高校生	合計
北海道	8	59	74(2)	141(2)	24	165(2)	—	2	1	1	4
青森	11	48	48(3)	107(3)	21	128(3)	—	2	—	—	2
岩手	8	49	43(1)	100(1)	13	113(1)	—	—	—	—	—
宮城	1	34	49(3)	84(3)	25	109(3)	—	—	—	—	—
秋田	—	9	7	16	2	18	—	—	—	—	—
山形	—	4	9	13	2	15	—	—	—	—	—
福島	1	16	13	30	6	36	—	—	—	—	—
茨城	—	1	3	4	2	6	—	—	—	—	—
栃木	—	—	1	1	1	2	—	—	—	—	—
千葉	2	9	3	14	3	17	—	—	—	—	—
東京	—	2	—	2	1	3	—	—	—	—	—
神奈川	—	3	3	6	1	7	—	—	—	—	—
新潟	—	5	5	10	2	12	—	1	1	—	2
富山	—	3	1	4	1	5	—	—	—	—	—
石川	5	13	17	35	8	43	1	1	—	—	2
福井	—	2	—	2	3	5	—	—	—	—	—
静岡	—	5	3	8	1	9	—	—	—	—	—
愛知	1	4	7	12	8	20	—	—	—	—	—
三重	2	10	6	18	6	24	—	—	—	—	—
京都	—	1	4	5	5	10	—	—	—	—	—
大阪	—	1	4	5	1	6	—	—	—	—	—
兵庫	1	12	9(2)	22(2)	4	26(2)	—	—	—	—	—
和歌山	—	3	5	8	4	12	—	—	—	—	—
鳥取	2	10	7	19	5	24	—	—	—	—	—
島根	3	10	21	34	6	40	—	—	—	—	—
岡山	3	5	2	10	3	13	—	—	—	—	—
広島	1	8	2	11	1	12	—	—	—	—	—
山口	—	17	25(1)	42(1)	13	55(1)	—	1	1	—	2
香川	—	3	4	7	3	10	—	—	—	—	—
徳島	—	5	7	12	2	14	—	—	—	—	—
愛媛	—	12	11	23	3	26	—	—	—	—	—
高知	1	8	13	22	5	27	—	—	—	—	—
福岡	3	26	13	42	8	50	1	—	—	—	1
福岡県有明海	—	1	1	2	3	5	—	—	—	—	—
佐賀県玄海	—	—	2	2	1	3	—	—	—	—	—
佐賀県有明海	—	3	1	4	1	5	—	—	—	—	—
長崎	2	33	28(1)	63(1)	23	86(1)	—	—	—	—	—
大分	2	21	13	36	4	40	—	—	—	—	—
熊本	—	3	6(1)	9(1)	—	9(1)	—	—	—	—	—
宮崎	3	16	10	29	5	34	—	—	—	—	—
鹿児島	2	12	17	31	3	34	—	—	—	—	—
沖縄	—	12	6	18	3	21	—	—	—	—	—
合計	62	498	503(14)	1,063(14)	236	1,299(14)	2	7	3	1	13

(注) 学資給与奨学生の()内は特殊児で内教である。

十八日。六時三十分には学校へ集合と
いうことで、ちよつとそれより前に家
を出ました。あまりにもわくわくして、
急ぎ足でいたので、寒いだろうと用
意していたカーディガンを忘れてしま
いました。それを気付いたのは、バス
に乗ってからでした。
午前中は、ずっとバスやフェリーに
乗っての移動でした。フェリーに乗っ
ていると、クラゲのすつごく大きなの
がいてびっくりしてしまいました。け
だその時、海がきたないといつづく感
じました。やつとバスをおりて初めて
の見学地は、平和記念像でした。みん
な平和をいのっているんだなと思いま
した。それとまちなかを通っていると、
家の玄関のほうに、折鶴の絵が書いて
あるのがあったので不思議に思ってい
ると、バスガイドのかたが、折鶴の絵
が書いてあるのは、被爆者のかたがい
る家だと説明して下さいました。その
あとの国際文化会館は、原爆でとけた
ビンや顔をそむけたくなるような写真

などもありました。あまりにも無残だ
ということがわかりました。その次は、
グラバー園。ここはさつきとは違い、
なんかうれしくなるようなところだし
た。
ホテルに行く前に、市内で買物をし
ました。ホテルは山の上にあつたよう
で、夜景はすつごく、もう最高の気分
でその日はねむりにつきました。
十九日。ホテルをすぐ出たの見学地
は、楽しみにしていたオランダ村でし
た。スタンプも全部おとして、キーホル
ダーをもらいました。なんか、日本を
出て外国旅行の気分でした。昼食は、
カツカレーでしたが、カレーが固まっ
ていたりしてちよつといやでした。し
かし、買いたのは、ここはすつごくいい
のがあつたような気がしました。その
あとの見学地は、太宰府天満宮でした。
頭が良くなるように、たくさんお願い
してきました。そして、旅館に着きま
したが、ここは、部屋がちよつと不公
平で、景色も見えらるどころではありま

せんでした。
二十日。この日は、五時四十五分起
床でした。すつごくねむいが、阿蘇山
に向かって旅館を出ました。しかし、
阿蘇山は天候が悪く、頂上まで登れず
残念でした。それと、すつごく寒くてカ
ーディガンを持ってくればよかったと
つくづく思いました。次は、熊本城が
最後の見学地になったのでじっくり見



野人として

知新寮入寮九カ月を
かえりみて

駒沢大学一年

松橋真司

過ぎています。晴れた日に屋上に
出れば、遠く富士山を望むことができ
るし、授業のない日には寮の周りを散歩
するのも結構楽しいものです。私の通
う大学は世田谷にあるので通学時間が
一時間四十分程かかります。地方に住
んでいる人にとって、一時間以上も電
車に乗るのはとても長く感じるもので
すね。しかし都会での暮らしではそれ
ほど長くは感じないものです。ただ、
一時限から授業があるときはちよつと
辛いと感じます。

私は今大学生という立場にあるので
すが、私にとって大学とは付加価値を
つける所なのです。例えば、自動車で
エンジンの性能がある程度の水準まで
達しどの自動車も走ることに差がなく
なると、サンルーフやパワーウィンド
ウを付けるという具合に、ほとんどの
人が高校を出る現代で学問的に一ラン
ク上の大学へ行き、就職の時に労働力
を少しでも高く買ってもらうことが本
当の目的だと思ふのです。名目上は、
学問を研究する場所なのですが、実際
それだけに学生生活を費やす大学生が
どれだけの価値があるのでしょうか。た
だ、大学の授業を受けてみると高校の授業や
教科書が、とおり一遍の理論を美辞麗
句で塗りかためたことに気づくので
す。特に社会科の教科書はその最た
も重大問題なのです。

ごあいさつ



大類穎子

昨年十月一日付けで、全漁連より出
向してまいりました大類穎子と申しま
す。
よろしくお願いいたします。

私は、昭和四十四年十月全漁連に入
会し初めての仕事が漁船海難遺族の実
態調査アンケートの集計でした。その

私が父親のいないという変則的な環
境のもとで育ちつつも、今こうして面
白おかしく都会暮らしをできることに
対し、育英会の皆様方には大変感謝し
ています。しかし、父親のハンデを身
にしてみても味わつてきてこの重苦しさから
逃れたかったのに、知新寮に入ってい
る以上父親(父のいない子)を意識しな
ければならないことに私はとても悩む
のです。ただ、人間にはどうしても抜
け出すことのできない環境がありま
すよね。私は年齢的にまだあきらめる
ことを強いられる立場だとは考えま
せんが、この環境からは決して抜け出
せないのかもしれない。

この前、久しぶりに中学時代の同級
生と会い一緒に酒を飲みました。二十
一歳ともなれば少ないながらも悲しみ
や恋を重ねているものです。今だから
言える事もあります。酔いもまわつて
行くにつれて、就職をどうするかとい
うことになり、Uターンするとか東京
に残るとか以前とは違ふ具体的な話し
になりました。夢の中に現実を見てい
る時代から現実の中に夢を見る時代に
私達は確実に進んでいました。夢をあ
きらめる必要はありませんが、二十歳
を過ぎたら現実の中に夢を見い出さな
ければならないと感じました。

編集後記

※ 奨学生の皆様には、希望に満ちた
新年を迎えられたこととお喜び申し
上げます。

※ 常々御支援・御協力を賜わつてお
ります皆様に心からお礼申し上げます。
※ この新年号は、奨学生や御さん
方のほかに、高校奨学金の御支援を
いただいている「励ましおじさん」
おばさん」会員から、励ましのお言
葉をいただきました。各会員の温かい
励ましと、数々の御指導御教訓を
賜わり感謝に堪えません。

※ 御多忙の中を御執筆くださいまし
た皆様に、心からお礼申し上げます。
※ いよいよ来年は、育英会設立二十
周年を迎えます。記念事業に関する
御希望等をお寄せください。(手島)

